東洋証券ハンドボール
ジャパンカップ'87
成功裡に終幕

「今後ともこうしたイベントを通じて、ハンドボールのより一層の普及・強化を」

日本ハンドボール協会
専務理事　安藤　純光

日本ハンドボール界初の〝冠大会〟ということで、内外のみなさまの大変なご注目をいただいた「東洋証券ハンドボール　ジャパンカップ'87」も、お蔭様で大変な成功を収め終えることができました。これも東洋証券をはじめ、多くの関係各位の御協力の賜物と深く感謝致しております。

日本ハンドボール協会は、今年で創立50周年を迎えたわけですが、この50周年を飾るにふさわしい企画をということで、ロス五輪直後から金・銀のメダルチームを日本に招いて〝世界のハンドボール〟を日本のファンにも見てもらおうと考え、交渉を進めてまいりました。多くの方々の御苦労で、幸いにも金のユーゴスラビア、銀の西ドイツの承諾を得ることが出来、また、女子の方でも世界チャンピオンのソ連、ロス五輪銀メダルの韓国、そして躍進著しいアメリカの三ヵ国を招くことが出来、誠に豪華な顔ぶれで〝ジャパンカップ'87〟を開催することが出来ました。

こうした大会を開催するにあたって、主催者として一番頭を悩ますのは資金面ですが、この点も今回、東洋証券の御厚意で多大な御援助をいただくことが出来、ファンの方々に大きな負担をかけることなく、世界のプレーを味わってもらうことが出来ました。

プレーの方は、さすがと思わせるユーゴのテクニック、西ドイツの若手プレーヤーのはつらつたるプレー、ソ連の迫力、韓国のスピード、アメリカの成長ぶりなど、日本のファンにもハンドボールの魅力を存分に味わっていただけたと思います。

また、来年のソウル五輪の出場権獲得をめざす男女の全日本チームも、最初プレーに固さが見られもしましたが、世界の強豪を相手に力いっぱいの試合を見せてくれ、8月末のアジア選手権での〝男女アベック出場獲得〟への夢を大いにふくらませてくれました。

大会がはじまるまで、東京・代々木第一体育館の広いスタンドを果たしてお客さんが埋めてくれるのだろうか、との不安がありましたが、関係者の方々の懸命の御努力もあって土、日の試合では6千人近いお客さんが詰めかけるという大盛況となりました。横浜、大阪、名古屋の会場でも熱心なファンに大勢観戦していただき、より一層ハンドボールの魅力を御理解いただけたものと信じております。

今後ともこうしたイベントを通じて、ナショナルチームの強化はもちろん、ハンドボールのより一層の普及、発展に向け努力してまいりたいと考えております。御尽力いただきましたみなさまに誌上を借りて厚く御礼申し上げるとともに、今後ともよろしく、御指導、御支援いただけますようお願い申し上げます。

ジャパンカップ'87 華麗なる激突のすべて

「東洋証券ハンドボール　ジャパンカップ'87」は、前号でも結果をお伝えしましたように、男子三カ国（日本、ユーゴ、西ドイツ）、女子四カ国（日本、ソ連、韓国、アメリカ）が、東京、横浜、大阪、名古屋の各会場で、〝華麗なる激突〟を見せてくれた。

今月は、その激突の模様を写真と戦評で詳しくお伝えしよう。



第1日（5月30日）　代々木第1体育館

女子

ソ連35（18−7、17−5）12日本

ジャパンカップ第1戦でいきなり〝女王〟ソ連との対決。これで固くなったのか、日本の動きにぎこちなさが見られ、ソ連のパワーに圧倒されたゲームだった。

開始1分すぎ、ソ連・バザノーワがステップシュートを決めて先制し、その後も速攻、ポスト、ロングシュートと攻撃機会をほとんど得点に結びつける有効な攻撃を展開、15分には10−5。日本もこのあたりまでは、山岸のいいシュートなどで懸命に頑張っていたが、16分すぎに得たPTを失敗したあたりから全く攻撃にリズムを失くし、実に13分間無得点。その間にソ連は8点を連取、結局前半を18−7の大差で終える。

後半に入り日本も立ち上がり互角の展開を見せたが、再び10分すぎから〝空白の時間〟となり、ソ連に7点の連取を許すなど圧倒的な攻撃力の前にいたずらに失点を重ね、結局35−12という大差で敗れてしまった。

日本は、〝女王〟のソ連にすっかり飲まれてしまい実力を発揮できずに終わってしまった。



ソ連の高いディフェンスに果敢に挑む磯山

韓国31（16−14、15−8）22アメリカ

ジャパンカップの初戦、劣勢と思われたアメリカが先手を取った。スティンガーのステップシュートで先行、つづいてジョーンズのジャンプシュートと開始3分で2−0。しかし、ここから地力に勝る韓国は多彩な攻撃を見せてくれた。まず成京花のカットイン、つづいてエース金賢美の鮮やかなロングシュート、金春礼のカットイン、李基順のポストプレーと4点を連取、2分過ぎには逆に4−2をリードを奪った。このあたり、アメリカのディフェンスがやや甘くなって、集中力を欠いた間にアッという間の逆転劇だったが、その後は全く一進一退の展開。韓国が金賢美のロングを中心に攻撃するのに対し、アメリカもスティンガーのステップ、速攻、ポストなどをまじえて応戦、前半を16−14と韓国2点のリードで折り返す。

しかし、後半に入ると次第にアメリカのスタミナ切れが目立ち、2分から11分までに韓国に連続5点を許し、23−16と勝負は決した。

やはり韓国のスピードと動きの量がアメリカを圧倒した試合だったが、アメリカもロング一本槍ではなく、速攻、ポスト、サイドなど、ロサンゼルス・オリンピック当時に比べて攻撃の幅が出てきており、韓国に対して前半に見せた気迫はすばらしいものがあった。

得	〔ソ連〕		〔日本〕	得
0	N.ミトリウク	GK	葛生豊子	0
0	I.マリュコ		小深田由紀子	0
0	T.シャリモア		村山みどり	0
2	L.カルローワ	FP	武藤夕起子	1
1	S.マニコーワ		井沢由美子	0
2	S.ツルチーナ		野嶋ちえみ	3
6	O.セメノーワ		近藤育子	0
8	T.オレクシュク		前田重子	1
4	M.バザノーワ		山岸和子	3
2	I.ツェマイティテ		根本幸枝	0
3	E.トウストガン		久保田美香	0
1	E.ネマシュカロ		丸田紀子	0
0	L.ミチュリーナ		磯山弘美	1
4	S.ビドリーナ		林智恵	0
2	E.グセーワ		比嘉晴美	3
0	N.チガンコーワ	(審・ブールメスター・ヘッガー)	鈴木美幸	0
35	(4)	PT	(1)	12

得	〔韓国〕		〔アメリカ〕	得
0	宋芝賢	GK	K.コーラハン	0
0	孫美娜		L.コーネン	0
0	尹秀郷			
2	金好連	FP	C.ペテルカ	0
1	金銀愛		M.ゴールアグハー	3
0	尹寅銑		S.ウィン	1
3	金春禮		P.ラック	0
0	金名順		S.ド・ラ・リーバ	1
1	李基順		K.クラーク	3
0	趙化善		C.スティンガー	5
12	金賢美		M.ラッタナー	5
7	奇美淑		L.S.ジョーンズ	4
0	石旼熹		K.パルグト	0
0	任美環			
0	金京純			
5	成京花	(審・北井・上久保)		
31	(3)	PT		22

得	〔西ドイツ〕		〔ユーゴスラビア〕	得
0	S.ヘッカー	GK	R.プシュニク	0
0	S.ケルナー		M.バシッチ	0
0	M.ベッカー		M.ルニッチ	1
2	R.ナイツェル	FP	G.ペルゴバッチ	1
2	M.フウット		Z.サラセビッチ	0
5	C.フィック		S.バビッチ	0
1	F.レール		J.ムルコニア	3
3	M.レーネルツ		Z.ポートナー	2
0	P.クゥアルティ		M.ウゼイロビッチ	0
0	J.ハーツ		J.ツベトコビッチ	8
8	J.フラッツ		J.ホルペルト	0
0	J.レール		I.プッチ	0
0	Z.ボルカー		M.イサコビッチ	4
1	M.クレム		I.スマイルジッチ	1
0	R.バウエルト	(審・後藤・島田)		
22	(4)	PT	(4)	20



アメリカのエース・ジョーンズはリードマンとして活躍

男子

西ドイツ22 〔11-11, 11-8 / 11-12〕 20 ユーゴスラビア

ロス五輪で、金メダルを賭けて大熱戦を展開した多くの名選手の顔が、残念ながら今回の来日では姿を消している。

しかし、何んといっても、世界最強を誇る両国選手の揃い踏みが日本のコートで観ることができる。この夢を日本の関係者は、どれ程長く見続けていたことだろうか。

館内は、第一日目にして、早くもメーンイベントの感がする。試合は、ロス五輪決勝の緊迫した雰囲気とは違って、互いにリラックスした状態で始まり、まずユーゴのフローター・ホートナーのロングで火蓋を切る。しかし、再三のロングも西ドイツのキーパーの好守に阻まれる。

その裏、西ドイツはリュディガーからポストのユッヘンに巧みなパスワークで繋ぎゲット、さらに堅実な守備から速攻で決め、スタート4分、早くも2点リードする。続いて45度のイエルクからサイドのミヒャエルに回して決める。いずれも、早い動きが巧みなコンビプレーを創り、5千の観衆もそのすばらしい力と技の応酬に大いに沸く。

その後、ユーゴも、プッチからニッケへとパスを回し、強引なポストプレーヤー・ツベトコビッチのロングシュートなどで反撃し、残り7分30秒で4対6。

西ドイツは、6番と4番、5番と8番がヨーロッパ独特のオフェンス、ディフェンスのチェンジを目まぐるしく行い、ピッタリと呼吸を合わせ意気の合ったところを見せる。ナショナルを編成して間もないということが信じられないほどのコンビである。

その後、チャンピオン・ユーゴも調子を出し、12分40秒、サイドに走り込んでのループシュートと10番ツベトコビッチのロングの一人時間差を見事に決めて1点に詰め寄る。さらにムコルニアのポストから跳んで空間での度肝を抜く、バックシュートを見せるが、これは外れ、その直後リバウンドを決めて8対8の同点とする。続いて、残り7分20秒、速攻で加点し、



西ドイツ・フラッツの迫力あふれる倒れ込みシュート

ユーゴは、このあたりからペースを掴んできた。さらに、中央から左へパス。8番のパートナーがカットインからループシュートで決め、試合を優位に進めた。しかし、西ドイツもセットから、ポストのマルクスが決め、また同点とする。残り1分30秒、ユーゴ14番イサコビッチが速射砲のようなロングを決め、1点差で折り返す。

パワーの激突あり、テクニックあり、そしてスピーディな攻撃と、会場は初めて観る世界のハンドボールに大満足、これがハンドボールだ。

後半に入り、西ドイツのリュディーガーがロングシュートを決め、同点とする。続いてユッヘンのPTで1点リード、さらにフランクが鮮やかな速攻で連取し、2点差となり試合は面白くなる。

残り25分頃、両チーム共譲らず、速攻、ロングシュートの激しい打ち合いが続くが、いずれも好守備をもってそれらを制した。点には繋がらないが、猛進といえる場面の連続である。残り23分、西ドイツは、リュディガーからクリスティアヌへとタップパスを送り、コンビプレーが益々冴える。続いて13番ユッヘンの右サイドからアンダーの逆スピンシュートでまたも3点差。

この頃から西ドイツ・ディフェンスは、前方に出るシフトに変え、これがユーゴ、フローターの動きを封じ、功を奏す。

その後もユーゴのセットフォーメーションを好ディフェンスで速攻に繋ぎ、また、ポストプレーなどで優位に進める。

ユーゴは、残り5分、3点差と苦戦。しかし、さすが〝王者〟、焦りを見せない。守備隊形を変え、前方に出て、カットを狙うが、一度速攻からPTで決めたにとどまり、3点差を遂に返すことは出来なかった。

西ドイツの速さとコンビが生きてロスの雪辱を果たした。

久々に入った観衆は、本場でのビッグゲームに大きな拍手を送り、それがいつまでも鳴りやまなかった。

（川上整司）



ユーゴを倒し、喜び合う西ドイツチーム

第2日（5月31日）代々木第1体育館

男子

ユーゴスラビア 31（17－7、14－8）15 日本

日本のスローで開始されたが、硬さが見られ、単調なミスが多く、宮下、首藤とロングを決めるが、ユーゴの攻撃を止めることができず、連続得点をされてしまう。15分を経過した時点で、すでに3対10と差を広げられ、再三の攻撃も、目まぐるしく変化するユーゴ・ディフェンス（1・2・3から変則の1～5）に、リズムをつかめず、単調なシュートになり、GKバシッチの好守に阻まれる。

ここで日本はゲームの流れを変えようと、ベテラン西山を入れ、守りも1～5から一線に変え、足を生かしたディフェンスをし、リズムを取り戻したが、日本の得点（ポスト立木・ロング西山・宮下）も最少限度になり、7対17で前半を折り返す。

後半0～6ディフェンスで足を使い、良く動き、GK矢内の好守にも助けられ、15分間を5対7と互角に戦うが、ルーズボールをとられや連続得点を許す。

日本も玉村、西山と得点をするが、ユーゴのパワフルな攻撃と日本の攻撃リズムを狂わせるような変化に富んだディフェンス（0～6、1～2～3、変則の1～5）で試合の主導権を手中にしながらのゲーム展開であった。さすが世界No1、ユーゴの攻守における壁は厚く、サイドのイサコビッチ、ポストのルニッチ、ロングのツベトコビッチ、GKのバシッチなど、個々の実力は、みていた観衆を納得させる好プレーであった。

全日本も15対35と敗れはしたが、最後の得点（ダブルスカイ）の成功が、今後のアジア大会への大きな自信となることだろう。

（藤村孝二）

女子

ソ連 31（14－15、17－14）29 韓国

前日の第1戦、アメリカに思わぬ苦戦をした韓国だが、この日は〝女王〟ソ連を最後まで苦しめるすばらしいゲームを見せた。

前半、全くの互角の立ち上がりだった。最初はソ連が先手を取り韓国がそれに追いつく。そして中盤は一度韓国が先手を取ったが再びソ連が逆転。そして再び前半終了間際に韓国が再逆転といった激しいゲーム展開で、前半は15－14と韓国の1点リードで終了。しかし、2点以上の差が一度もつかないという全くの一進一退の展開であった。

後半の先手は韓国。開始早々PTを得てこれをエース・金賢美が決めて16－14、この試合初めての



ソ連戦に1人で17得点という大活躍を見せた韓国のエース・金賢美

得	〔ユーゴスラビア〕		〔日　本〕	得
0	R.プシュニク	GK	井藤英忠	0
0	M.バシッチ	GK	上村幸彦	0
0	E.ベリッチ	GK	矢内浩	0
7	M.ルニッチ	FP	西山清	3
2	G.ペルゴバッチ	FP	山本興道	1
0	Z.サラセビッチ	FP	玉村健次	1
0	S.バビッチ	FP	荷川取義浩	0
0	I.スマイルジッチ	FP	首藤信一	1
6	J.ムルコニア	FP	高村誠二	2
4	Z.ポートナー	FP	立木浩二	3
0	M.ウゼイロビッチ	FP	田口隆	0
7	J.ツベトコビッチ	FP	宮下和広	4
0	J.ホルペルト	FP	奥田新治	0
2	I.プッチ	FP	朝生和光	0
3	M.イサコビッチ	FP	藤井泉	0
31	(4)	PT（審・上久保・北井）	(1)	15

得	〔ソ　連〕		〔韓　国〕	得
0	N.ミトリウク	GK	宋芝賢	0
0	T.シャリモア	GK	孫美娜	0
		GK	尹秀郷	0
0	L.カルローワ	FP	金好連	1
0	S.マニコーワ	FP	金銀愛	1
2	S.ツルチーナ	FP	尹寅銑	0
6	O.セメノーワ	FP	金春禮	1
5	T.オレクシュク	FP	金名順	3
3	M.バザノーワ	FP	李基順	3
0	I.ツェマイティテ	FP	趙化善	0
7	E.トウストガン	FP	金賢美	17
8	E.ネマシュカロ	FP	奇美淑	2
0	S.ビドリーナ	FP	任美環	0
0	E.グセーワ	FP	金京純	0
		FP	成京花	4
31	(1)	PT（審・ミトロビック・バルチック）	(8)	29

得	〔日　本〕		〔アメリカ〕	得
0	葛生豊子	GK	K.コーラハン	0
0	小深田由紀子	GK	L.コーネン	0
0	村山みどり	GK		
1	武藤夕起子	FP	C.ペテルカ	0
3	井沢由美子	FP	M.ゴールアグハー	0
2	野嶋ちえみ	FP	S.ウィン	6
3	近藤育子	FP	T.コントス	0
7	前田重子	FP	S.ド・ラ・リーバ	1
2	山岸和子	FP	K.クラーク	2
0	根本幸枝	FP	C.スティンガー	1
0	久保田美香	FP	M.ラッタナー	0
1	丸田紀子	FP	L.ジョーンズ	5
0	磯山弘美	FP	K.パルグト	0
0	林智恵	FP		
0	鈴木美幸	FP		
19	(2)	PT（審・斉藤・千野）	(0)	16

2点差。しかし、この後からソ連がポスト、速攻と連続4得点をあげて一気に逆転。だが、韓国も引かなかった。10分すぎのソ連のPTを止めて再び勢いづき、12分すぎには21―20と再逆転に成功。その後再び一進一退の展開で16分すぎにソ連が23―22と再三逆転を果たしてからは終始ソ連が先手をとり、韓国は再度の逆転は成らなかった。

しかし、最後までの必死の攻防は息づまるものがあり、残り5分を切ってからソ連は4点を連取、韓国も1分を切ってから2点を返すなど必死の反撃を見せたが時すでに遅かった。

韓国・金賢美はこの試合1人で17点を叩き出す大活躍を見せ、ソ連を最後まで苦しめた。〝女王〟のソ連は最後は貫録を見せて振り切ったが、この試合、今回のジャパンカップ随一の好試合だったのではないだろうか。

日　本19〔12―5／7―11〕16アメリカ

ソ連戦で活躍した比嘉を欠いて、サイドに井沢、近藤、45度に山岸、野嶋、ポストに磯山、センターに前田という攻撃陣で、ディフェンスに野嶋の代わりに武藤が45度に入るという布陣で、日本スローオフでの試合開始であった。一方、アメリカはディフェンスにサイドから、ラッターナー、ウィン、パルグト、クラーク、ラック、ゴールアグハーという布陣で臨み、オフェンスに回るとパルグトがスティンガー、ラックがジョーンズに代わるという攻撃陣であった。試合開始早々は両チームとも慎重になったためか動きが硬く、10分経過の時点で2―1と日本リードであったが得点の少ない展開であった。この間日本は速攻から、前田のカットインから、そして井沢のサイドからそれぞれペナルティースローを得たが、3本ともはずしてしまうという拙攻が続いていた。しかし、アメリカがミスを連発して助けられた。10分過ぎからは、ジョーンズがロングを決めて2―2、続いてクラークがポストから決めて一度は逆転されるが、すぐ山岸がフリースローから返すといった展開で、一進一退が続いた。



日本チームのリードマンとして活躍した前田

15分あたりから、アメリカは日本のディフェンスを破れなくなった。一方日本は、アメリカのミスから速攻で井沢が決めて5―4と再逆転をし、以降野嶋のステップ、山岸のロングなどで着々と加点して行った。20分過ぎにはラッターナーがキーパーにボールを返すというミスを犯し、このペナルティスローを野嶋が決めて8―4となった。このあとすぐにラックが退場となり、日本はますます勢いづいた。残り8分は、前田がパスカットから独走で決めたり、カットインから決めたりと連続4得点と大活躍であった。この間アメリカは依然ディフェンスを破れず、1得点に留まり、試合の大勢は前半で決まったようであった。

後半に入ってすぐ、日本のミスから速攻で1点返されるが、日本もアメリカのミスからの速攻で返した。アメリカは、相変らず日本ディフェンスを割れず、ボールをサイドに回してきた。ジョーンズからバックパスでうまくサイドに回した場面もあったが、シュートをミスする拙攻が目立った。日本は、ここらあたりから今度は近藤が活躍し、速攻から2本、サイドからと3本のシュートを決めて16―7とリードを広げた。このあとパルグトが退場となる。

15分過ぎから、日本はメンバー交代を盛んにしたが、アメリカの猛反撃が始まった。まずジョーンズからのポストのクラークに落として9点目、次にウィンがカットインから10点目、そして日本のミスから速攻で11点目と着々と加点していった。この後もリバウンドから、ポストから、カットインから、日本のミスから速攻と8得点を挙げた。この間日本は、井沢のサイドとポストからの2得点にフィールドゴールは留った。しかし、終盤はミスの応酬となり大味な試合となった。全般的には日本のディフェンスが成功した試合を言えよう。

（村松 誠）

第3日（6月2日） 代々木第1体育館

女子

韓国 32（17―15／15―12）27 日本

アメリカ戦と同じ布陣で日本スローオフで始まった。立ち上がりまず日本は韓国のミスから速攻で井沢が決めて先行した。韓国は立ち上がりからミスが多く、日本ペースで進む。サイドから近藤が、パスカットから前田が、そしてポストから磯山が決めて5―2と日本リード。しかし韓国も頑張り、ミスが無くなって、セットから金春礼がサイドから、成京花がロングで、また金美淑がサイドから決めて10分時点で6―5と迫った。ここからは韓国ペースとなり、日本のミスなどから3連続得点で6―8と逆転する。14分からはまた日本ペースとなり、前田のミドル、磯山の速攻で同点、山岸のロングで逆転、前田のカットインで10―8となる。20分からは韓国が、日本がミスを重ねる間にまた逆転する。まず金京順がロングと日本のミスからの速攻で同点、そして奇美淑のサイドで10―11とした。このあとすぐ野嶋がブラインドを突いたステップから決めてまた同点で残り5分。ここからは得点経過は一進一退をたどる。任美環がカットインから決めると、サイドから井沢のペナルティーを野嶋が決めて同点。山岸がポストの磯山にうまく落として決めると、李基順がパスカットから独走で同点。井沢がサイドからのループシュートで決めると、フリースローから成京花のロングがディフェンスの手に当たってゴールするという幸運で同点。野嶋がフリースローから決めると、前半終了までに金美淑がサイドから返してまたも同点となった。



韓国のスピードが勝った試合
シュートするのは成京花

後半に入っても5分までは同じ展開が続く。李基順がカットインから決めれば、日本も前田がカットインから返す。野嶋がロングを決めれば、奇美淑がサイドから返す。井沢が速攻で決めれば、金賢美がロングで返す。サイドでのペナルティーを成京花が決めれば、野嶋がステップでブラインドをついて19―19。ここから日本はディ

フェンスを割れなくなり、外からのシュートとミスで約10分ノーゴールとなる。この間韓国は日本のミスから速攻などで連続4得点し19―23とリードする。このあと野嶋がペナルティーから、磯山がポストからのシュートを決め追いかけたが、韓国のペースは崩れなかった。このあとも日本はディフェンスを割れず、再三シュートカットされる場面が続いた。

一方韓国は、この間シュートカットからの速攻やロングシュートで着々と加点した。日本もフリースローから前田が回り込むフォーメーションを見せるなど、工夫はあったがゴールできずに終わった。終了5分前には、井沢がフェイントでサイドから抜いて25―29。後半5分から15分の拙攻がたたり、4点差のまま来てしまった。終盤は、韓国がロング、ポスト、速攻で3点、日本が前田のミドルと速攻の2点であった。全般的には、日本は韓国の早い速攻を守れず、またセットでは45度の1対1から崩されたカットインからとサイドからの失点の9点が目立った。

（村松　誠）

〔日本〕

	選手	得
GK	葛生豊子	0
	小深田由紀子	0
	村山みどり	0
FP	武藤夕起子	0
	井沢由美子	4
	野嶋ちえみ	7
	近藤育子	1
	前田重子	7
	山岸和子	3
	根本幸枝	0
	久保田美香	0
	丸田紀子	0
	磯山弘美	5
	林智恵	0
	鈴木美幸	0
PT	(2)	27

〔韓国〕

	選手	得
GK	宋芝賢	0
	孫美娜	0
	尹秀郷	0
FP	金好連	0
	金銀愛	3
	尹寅銑	1
	金春禮	3
	金名順	0
	李基順	3
	趙化善	0
	金賢美	5
	奇美淑	8
	任美環	2
	金京順	2
	成京花	5
PT	(1)	32

（審・上久保・北井）

ソ連 30（16―11, 14―7）18 アメリカ

実力的に見て数段の差がある対戦、アメリカのスローオフで始まり、1分、アメリカがPTを得てこれをスティンガーが決めて先制した。

しかし、その後アメリカはソ連のディフェンスを攻め切れず単発的なロングを放ち、これをソ連が速攻につなげて4分から8分の間に4点を連取、あっさりとソ連が逆転。しかし、この間ノーマークシュートをはずすなどソ連もいささかゆとりというか、雑なプレーが見えた。

その後、アメリカも攻撃の中心のスティンガー、ジョーンズの2人が大健闘、ステップシュート、ジャンプシュートを交互に決めて互角に点を取り合い、20分過ぎまで11―9と全くの一進一退。しかし、残り5分にアメリカ・ゴールアグハーが2分間退場となったあたりから再びソ連がじりじりと引き離し、前半終了1秒前にPTを決めるなどして16―11と5点を

〔アメリカ〕

	選手	得
GK	K.コーラハン	0
	L.コーネン	0
FP	C.ペテルカ	0
	M.コールアグハー	0
	S.ウィン	2
	P.ラック	0
	S.ド・ラ・リーバ	0
	K.クラーク	1
	C.スティンガー	5
	M.ラッタナー	0
	L.ジョーンズ	9
	K.パルグト	1
PT	(2)	18

〔ソ連〕

	選手	得
GK	N.ミトリウク	0
	T.シャリモア	0
FP	L.カルローワ	0
	S.マニコーワ	2
	S.ツルチーナ	1
	O.セメノーワ	3
	T.オレクシュク	4
	M.バザノーワ	1
	I.ツェマイティテ	2
	E.トウストガン	2
	E.ネマシュカロ	4
	L.ビドリーナ	5
	S.グゼーワ	6
	E.ミチュリーナ	0
PT	(4)	30

（審・島田・後藤）

〔日本〕

	選手	得
GK	井藤英忠	0
	矢内浩	0
	橋本行弘	0
FP	西山清	0
	山本興道	6
	玉村健次	0
	荷川取義浩	0
	首藤信一	4
	酒巻清治	0
	高村誠一	0
	立木浩二	1
	田口隆	0
	宮下和広	4
	奥田新治	2
	藤井泉	0
PT	(5)	17

〔西ドイツ〕

	選手	得
GK	S.ヘッカー	0
	S.ケルナー	0
	M.ベッカー	0
FP	R.ナイツェル	4
	M.フウット	3
	C.フィック	0
	F.レール	0
	M.レーネルツ	2
	M.クレム	4
	P.クアルティ	0
	J.ハーツ	0
	J.フラッツ	10
	R.バウエルト	0
	J.レール	1
	V.ツァーベ	0
PT	(3)	24

（審・バルチック・ミトロビッチ）



"女王" ソ連のチーム・リーダーのツルチーナ。さすがのプレーを見せてくれた

リードして折り返す。

　後半に入ると、アメリカの攻撃がジョーンズ1本となり、スティンガーがとめられた分得点力が落ちた。逆にソ連は、相手ミスを速攻につなげ、サイド、カットイン、など大きな攻撃を展開させる余裕を見せ、次第に得点を広げていった。

　ソ連は途中から若手選手を次々と交代させて出す余裕を見せ、また、この若手選手が意欲あふれるプレーを見せて、さすが〝世界チャンピオン〟の貫禄を見せてアメリカに圧勝した。

　アメリカは、ジャパンカップ3試合ともよく善戦したが、どうしても後半のスタミナ切れは否めず、結局3戦全敗に終わってしまった。

男子

西ドイツ 24（13−7, 11−10）17 日本

　試合開始早々、日本チームは固さが見られ、イージーなミスが数本続き、西ドイツに先行を許す戦いとなる。

　日本は、ディフェンスでよく頑張り、足を使い、早いツメで西ドイツのパワーあふれる攻撃を食い止め、シュートに持ち込まれてもGK井藤がナイスキーピングを見せる。

　得点ではシーソーゲームながら完全に日本ペースの展開で試合が進行する。西ドイツは、思うようにゲームができず、あせりからかラフなディフェンスが目立ち、警告、退場を科せられる場面が多く、まったくリズムをつかみ切れずに前半を終了する。

　後半に入っても日本の闘志が勝り、ペースに乗り試合が進む。それでも西ドイツはさすがと思わせるパワー、テクニックを兼ね備えており、フラッツのサイド、ステップシュートなどで得点を重ね、日本にリードを許さなかった。

　後半中ば、体格差からくる疲れが出たのか日本チームは集中力を欠き、あっさり得点されるようになる。こうなると、勝負はついてしまう。結局7点差で試合終了。

　今日の試合で、前半すばらしいフットワークのディフェンス、西ドイツの激しいディフェンスに負けることなく攻撃した日本チームは印象に残った。

　しかし、前半のスタミナ消耗が後半中ばの集中力不足につながったことなど、試合終了時まで、あの前半のような動きが出来なければ、世界のトップクラスに勝つのは難かしいと思える試合でもあった。

（新井田司）



力強いシュートをみせる首藤

第4日（6月3日）横浜文化体育館

男子

ユーゴスラビア 25（12−13, 13−7）20 日本

　前日の西ドイツ戦で惜敗した日本がどこまで世界チャンピオンに喰いつくかに大きな期待が寄せられた。

　ゲームは、日本が試合開始直後ペナルティースローで先取点をあげ、好スタートを切った。しかし、ユーゴは、動きの早いディフェンスに日本のエース宮下、首藤の動きを封じ込み、20分間日本のフィールドゴールを許さなかった。

　そして攻撃面では、サイド、ポスト、ロングシュートなど多彩な攻撃でゲームの主導権を握った。この間、日本のミスプレーも出て20分までに更に5点を連取され一方的なゲーム展開となり、勝敗を決した感があった。このままゲームがワンサイドになるかと思ったが、日本も良く頑張り、立木のポストプレー、朝生のサイドシュートを決め、13対7で前半を終了した。

　後半ユーゴは、世界のサイドプレーヤー、イサコビッチのスピンシュートでスタートし、観衆を「アッ」と言わせた鮮やかなシュートが決まってスタートした。

日本は、前半のミスとユーゴの好ディフェンスを攻めあぐみを後半でどう挽回するかに興味が持たれた。日本は後半動きも早くなり、立木のポストを中心に朝生、山本のサイド攻撃が加わり、ユーゴのディフェンスが引いたときに宮下、首藤がロングを決め、力のあるゲーム展開となった。しかし、ユーゴは世界チャンピオンらしく、イサコビッチの4連続得点などで裕々とリードを保ち、好ディフェンスからの速攻、豪快なロングシュート、目を見はるサイドシュートなど変化のある攻撃は、日本のハンドボール技術の向上に大きな

刺激を与えてくれた。
世界のトッププレーは、やはり日本のハンドボールとは異なり、体格の差は勿論のこと、スピードとパワーの差は、まだまだひらきが見られた。日本も走りさえ持続すれば、ある程度戦えるが、世界の座に力を示すためには、まだまだ遠い先のことと思われる。

（佐分正典）

得	〔ユーゴスラビア〕		〔日　本〕	得
0	R.プシュニク	GK	井藤英忠	0
0	M.バシッチ	GK	矢内浩	0
2	M.ルニッチ	FP	西山清	0
1	G.ペルゴバッチ	FP	山本興道	2
1	Z.サラセビッチ	FP	玉村健次	1
0	S.バビッチ	FP	荷川取義浩	0
0	I.スマイルジッチ	FP	首藤信一	4
6	J.ムルコニア	FP	酒巻清治	0
2	Z.ポートナー	FP	高村誠二	0
0	M.ウセイロビッチ	FP	立木浩二	6
1	J.ツベトコビッチ	FP	田口隆	0
1	J.ホルペルト	FP	宮下和広	3
1	I.プッチ	FP	奥田新治	1
			朝生和光	3
25	(6)	PT（審・ヘッガー／ブールメスター）	(2)	20

第5日（6月5日）　大阪市立中央体育館

男子

ユーゴスラビア26〔9—5 17—8〕13西ドイツ

東京での第一戦では不覚をとったユーゴだが、この試合は気迫のこもったプレーで西ドイツを圧倒、ロス五輪金メダルの意地を見せた。

立ち上がり、先手を取ったのは西ドイツで、F・レールの速攻で先制。しかし、ユーゴはすぐにポスト、速攻などで連取、逆転する。

その後西ドイツも反撃を見せ一進一退の展開となったが、前半終了間近、西ドイツは退場者を出し、その間にユーゴに2点連取され、9—5で前半を終える。

後半立ち上がり、西ドイツがディフェンスを固めてから反撃、再び2点差まで詰め寄ったが、6分、ノーマークの速攻をユーゴGKの好守に阻まれ、逆に速攻で得点を許して流れが変わり、勢いに乗ったユーゴは、名手・イサコビッチ、ムルコニアらが両サイドから着々と加点、大きく差を広げて勝負を決めジャパンカップ'87の優勝を決定した。

得	〔ユーゴスラビア〕		〔西ドイツ〕	得
0	R.プシュニク	GK	S.ヘッカー	0
0	M.バシッチ	GK	S.ケルナー	0
2	M.ルニッチ	FP	R.ナイツェル	3
3	G.ペルコバッチ	FP	M.フウット	0
0	Z.サラセビッチ	FP	C.フィック	5
0	S.バビッチ	FP	F.レール	0
0	I.スマイルジッチ	FP	M.レーネルツ	0
4	J.ムルコニア	FP	M.クレム	0
2	Z.ポートナー	FP	P.クアルティ	0
0	M.ウセイロビッチ	FP	J.ハーツ	0
4	J.ツベトコビッチ	FP	J.フラッツ	3
2	J.ホルペルト	FP	R.バウエルト	0
2	J.プッチ	FP	J.レール	2
7	M.イサコビッチ	FP	V.ツァーベ	0
26	(5)	PT（審・嶋崎／井上）	(1)	13

第6日（6月6日）　名古屋市立体育館

男子

西ドイツ22〔12—9 10—7〕16日本

最終戦に闘志を燃やす全日本のスローオフで始まったこの試合は、立ち上がりから積極的な攻撃で、開始30秒、山本が右サイドからまわり込みシュートを狙うが惜しくもGKに阻まれる。その1分後、スピードに乗った攻撃パターンから、首藤がゴール左上に豪快なロングシュートを決め先制点。しかし西ドイツも、3番ネーチェルのロングですぐさま同点とする。

その後、全日本は高村のカットイン、山本のサイドシュート、玉村のPTなどで得点。対する西ドイツも、ネーチェルを中心としたロング、カットインによる力強いプレーで譲らず、前半25分まで9—9の全くの互角。しかし西ドイツは26分、8番クレムのシュートを皮切りに速攻を含め3点を連取し、一気に12—9と差を広げる。

後半に入り、全日本は前半タイムアップ寸前に退場者を出した西ドイツのディフェンス陣を攻め切れず、逆に13番フラッツに巧みなサイドシュートを決められる。踏んばりどころの全日本は、西山のミドル、フェイントシュートが決まり粘りをみせたが、6分立木の負傷退場のアクシデントもあり、後半12分から14分間無得点。その間、西ドイツは相手ミスにも乗じて、5番フィック、7番レーネルツが速攻を繰り出し加点。ようやく26分に、玉村がPTを決めたが、その差は8点。終了寸前に西山が、ミドルシュートを決め反撃するものの、時すでに遅く、結局ロサンゼルス・オリンピック銀メダルの西ドイツが貫禄をみせつけ、粘る全日本を振り切った。

得	〔西ドイツ〕		〔日　本〕	得
0	S.ヘッカー	GK	井藤英忠	0
0	S.ケルナー	GK	上村幸彦	0
0	M.ベッカー	GK	矢内浩	0
7	R.ナイツェル	FP	西山清	7
0	M.フウット	FP	山本興道	2
3	C.フィック	FP	玉村健次	2
1	F.レール	FP	荷川取義浩	0
2	M.レーネルツ	FP	首藤信一	3
4	M.クレム	FP	高村誠二	1
0	P.クアルティ	FP	立木浩二	0
0	J.ハーツ	FP	田口隆	1
5	J.フラッツ	FP	宮下和広	0
0	R.バウエルト	FP	奥田新二	0
0	J.レール	FP	朝生和光	0
0	V.ツァーベ	FP	藤井泉	0
22	(2)	PT（審・バルチック／ミトロビッチ）	(4)	16

第10回世界学生選手権大会

ルーマニアがソ連を降し優勝

第10回世界学生選手権大会は、5月30日から6月8日までルーマニアのブカレストで16ヵ国が参加して開催された。決勝は、ルーマニアとソ連の対決となり、地元ルーマニアが声援に応えて優勝、日本は健闘したものの13位にとどまった。（詳細は次号で）

成績

▼予選リーグCグループ

ソ連 30（16－10、14－6）16 日本

〔日本〕	得
井上	0
比嘉	0
楠本	3
山村	1
斎藤成	0
木村	2
斎藤慎	1
長沢	0
山中	0
加藤	1
甲斐	3
田中	5
	16

アメリカ 22－15 イスラエル

日本 22（10－10、12－9）19 アメリカ

〔日本〕	得
高橋	0
比嘉	0
楠本	5
山村	5
木村	1
斎藤慎	0
橋本	6
長沢	0
甲斐	5
村田	0
梅基	0
田中	0
	22

ソ連 25－13 イスラエル

イスラエル 19（10－6、9－7）13 日本

〔日本〕	得
高橋	0
比嘉	0
楠本	2
山村	0
木村	3
斎藤慎	1
橋本	0
長沢	0
甲斐	6
村田	1
梅基	0
田中	0
	13

ソ連 25－17 アメリカ

〔順位〕①ソ連（3勝）②アメリカ（1勝2敗）③イスラエル（1勝2敗）④日本（1勝2敗）※2～4位は得失点差による。

▼予選リーグAグループ

スイス 17－16 ナイジェリア
ルーマニア 27－16 ブルガリア
ルーマニア 36－19 スイス
ブルガリア 30－17 ナイジェリア
ブルガリア 25－15 スイス
ルーマニア 38－19 ナイジェリア

〔順位〕①ルーマニア（3勝）②ブルガリア（2勝1敗）③スイス（1勝2敗）④ナイジェリア（3敗）

▼予選リーグBグループ

ポーランド 22－17 モロッコ
ユーゴスラビア 24－17 トルコ
ユーゴスラビア 30－24 モロッコ
ポーランド 24－19 トルコ
トルコ 25－23 モロッコ
ユーゴスラビア 18－16 ポーランド

〔順位〕①ユーゴスラビア（3勝）②ポーランド（2勝1敗）③トルコ（1勝2敗）④モロッコ（3敗）

▼予選リーグDグループ

ハンガリー 25－23 韓国
西ドイツ 18－17 オーストリア
ハンガリー 26－17 西ドイツ
韓国 33－25 オーストリア
ハンガリー 20－14 オーストリア
韓国 37－24 西ドイツ

〔順位〕①ハンガリー（3勝）②韓国（2勝1敗）③西ドイツ（1勝2敗）④オーストリア（3敗）

▼準決勝リーグⅠ組

ルーマニア 27－14 ポーランド
ユーゴスラビア 26－20 ブルガリア
ブルガリア 25－21 ポーランド
ルーマニア 20－15 ユーゴスラビア

〔順位〕①ルーマニア（3勝）②ユーゴスラビア（2勝1敗）③ブルガリア（1勝2敗）④ポーランド（3敗）※予選リーグの結果を含む。

▼準決勝リーグⅡ組

ソ連 26－24 韓国
ハンガリー 25－24 アメリカ
韓国 28－22 アメリカ
ソ連 18－14 ハンガリー

〔順位〕①ソ連（3勝）②ハンガリー（2勝1敗）③韓国（1勝2敗）④アメリカ（3敗）※予選リーグの結果を含む。

▼下位リーグⅠ組

モロッコ 17－15 スイス
トルコ 25－22 ナイジェリア
ナイジェリア 16－12 モロッコ
トルコ 25－21 スイス

〔順位〕①トルコ（3勝）②ナイジェリア（1勝2敗）③モロッコ（1勝2敗）④スイス（1勝2敗）※予選リーグの結果を含む。

▼下位リーグⅡ組

日本 29（14－12、15－10）22 西ドイツ

〔日本〕	得
高橋	0
井上	0
楠本	6
山村	6
斎藤成	0
木村	3
斎藤慎	2
橋本	6
長沢	0
山中	0
甲斐	4
田中	2
	29

イスラエル 17－17 オーストリア

オーストリア 23（11－8、12－7）15 日本

〔日本〕	得
高橋	0
比嘉	0
楠本	1
山村	5
斎藤成	0
木村	0
斎藤慎	1
橋本	0
長沢	0
加藤	2
甲斐	5
田中	1
	15

イスラエル 24－21 西ドイツ

〔順位〕①イスラエル（2勝1分）②オーストリア（1勝1分1敗）③日本（1勝2敗）④西ドイツ（1勝2敗）※予選リーグの結果を含む。3～4位は得失点差による。

▼15～16位決定戦

スイス 24（13－9、11－11）20 西ドイツ

▼13～14決定戦

日本 24（11－8、13－15）23 モロッコ

〔日本〕	得
高橋	0
井上	0
楠本	6
山村	2
木村	0
斎藤慎	0
橋本	8
山中	0
甲斐	6
村田	0
梅基	0
田中	2
	24

▼11～12位決定戦

オーストリア 19（7－10、12－7）17 ナイジェリア

▼9～10位決定戦

トルコ 26（14－16、12－8）24 イスラエル

▼7～8位決定戦

ポーランド 22（9－8、8－9、5－1）18 アメリカ

▼5～6位決定戦

ブルガリア 29（17－16、12－12）28 韓国

▼3～4位決定戦

ユーゴスラビア 29（14－11、15－14）25 ハンガリー

▼決勝

ルーマニア 23（11－10、12－9）19 ソ連

大会参加前の親善試合（ルーマニア）

〈5月24日〉オラデア 24（13－13、11－8）21 日本

〈5月25日〉日本 24（13－8、11－16）24 メカニカ

〈5月26日〉日本 30（12－9、18－15）24 チミソアラ工科大

〈5月28日〉日本 37（19－13、18－11）24 メコンイアシ

〈5月29日〉日本 28（13－12、15－10）22 メコンイアシ

各地学生春季リーグ戦

関東学生

▼男子2部

明大 30－12 上智大
駒大 12－0 東学大
東海大 23－14 国武大
順大 34－19 東大
明大 28－18 東大
東学大 23－20 国武大
順大 29－14 上智大
東海大 36－11 駒大
東学大 28－15 上智大
明大 38－9 駒大
東海大 26－20 東大
東学大 25－22 東大
明大 22－12 国武大
順大 40－23 駒大
東海大 34－15 上智大
東大 21－18 駒大
順大 26－18 東学大
国武大 37－24 上智大
明大 20－14 東海大
順大 37－17 国武大
上智大 24－13 駒大
明大 17－13 東学大
国武大 25－23 東大
順大 26－21 東海大
東大 26－16 上智大
駒大 26－17 国武大
順大 24－15 明大
東海大 20－18 東学大

〔順位〕①順天堂大（7勝）②明治大（6勝1敗）③東海大（5勝2敗）④東京学芸大（3勝4敗）⑤東大（2勝5敗）⑥国際武道大（2勝5敗）⑦駒沢大（2勝5敗）⑧上智大（1勝6敗）

▼男子3部

明星大 23－21 一橋大
武工大 23－19 防大
茨城大 20－13 東農大
東経大 27－23 東理大
東経大 28－14 武工大
東農大 22－20 一橋大
明星大 27－24 茨城大
東理大 31－29 防大
東経大 23－18 明星大
茨城大 29－26 武工大
東理大 31－23 一橋大
東農大 25－20 防大
一橋大 18－16 東経大
東農大 25－23 武工大
明星大 33－23 防大
東理大 23－22 茨城大
明星大 38－25 武工大
一橋大 23－23 防大
茨城大 23－19 東経大
東理大 18－18 東農大
東経大 14－13 東農大
一橋大 26－21 武工大
茨城大 26－19 防大
東理大 32－21 明星大
東理大 41－30 武工大
茨城大 25－21 一橋大
東農大 26－25 明星大
東経大 24－18 防大

〔順位〕①東京理科大②茨城大③東京経済大④東京農大⑤明星大⑥一橋大⑦武蔵工大⑧防衛大

▼男子4部

横浜市大 32－29 農工大
芝浦工大 27－16 神奈川大
立大 17－15 千葉工大
青学大 41－21 専大
神奈川大 31－19 農工大
芝浦工大 36－17 横浜市大
千葉大 26－26 専大
青学大 27－22 立大
専大 38－27 横浜市大
神奈川大 24－23 立大
千葉大 33－20 農工大
芝浦工大 28－17 青学大
立大 25－15 横浜市大
専大 25－24 神奈川大
千葉大 32－21 神奈川大
立大 30－25 農工大
青学大 32－22 横浜市大
芝浦工大 26－22 専大
農工大 44－38 青学大
千葉大 26－25 芝浦工大
神奈川大 34－24 青学大
千葉大 27－18 横浜市大
専大 39－36 農工大
芝浦工大 22－22 立大
芝浦工大 37－23 農工大
専大 30－23 立大
神奈川大 36－21 横浜市大
青学大 25－18 千葉大

〔順位〕①芝浦工大②千葉大③専修大④青山学院大⑤神奈川大⑥立教大⑦東京農工大⑧横浜市立大

▼男子5部

都留文大 40－24 都立大
埼玉大 28－27 東工大
横浜国大 21－19 創価大
文教大 30－24 独協大
都立大 24－16 独協大
創価大 26－20 埼玉大
横浜国大 31－23 東工大
都留文大 39－28 文教大
東工大 31－23 都立大
都留文大 27－20 埼玉大
横浜国大 42－11 独教大
創価大 24－22 文教大
文教大 27－19 東工大
横国大 29－21 都留文大
埼玉大 24－20 独協大
創価大 29－14 都立大
横浜国大 41－13 都立大
文教大 27－19 埼玉大
創価大 30－26 東工大
都留文大 33－19 独協大
都立大 20－19 埼玉大
横浜国大 38－22 文教大
文教大 26－25 都立大
横浜国大 25－19 埼玉大
都留文大 21－19 創価大
東工大 33－22 独協大
都留文大 32－21 東工大
創価大 31－13 独協大

〔順位〕①横浜国立大②都留文科大③創価大④文教大⑤東京工大⑥東京都立大⑦独協大⑧埼玉大

▼男子6部

産能大 42－25 関学大
帝京大 22－22 千葉工大
東洋大 35－35 武蔵大
横浜商大 28－19 亜大
帝京大 38－25 関学大
産能大 23－21 千葉工大
横浜商大 47－23 東洋大
亜大 23－18 武蔵大
亜大 28－20 関学大
千葉工大 35－34 東洋大
産能大 34－23 武蔵大
横浜商大 26－22 帝京大
東洋大 35－17 関学大
亜大 20－19 千葉工大
武蔵大 28－27 関学大
横浜商大 34－17 千葉工大
帝京大 28－24 亜大

産能大 34－31 東洋大
横浜商大 41－11 関学大
帝京大 31－18 東洋大
産能大 35－23 亜大
武蔵大 22－18 千葉工大
横浜商大 38－21 武蔵大
東洋大 24－21 亜大
千葉工大 42－31 関学大
帝京大 26－18 産能大
帝京大 33－21 武蔵大
横浜商大 42－22 産能大

〔順位〕①横浜商科大②帝京大③産業能率大④亜細亜大⑤東洋大⑥千葉工大⑦武蔵大⑧関東学院大

▼男子7部

外語大 40－8 日工大
杏林大 29－13 大東大
明学大 38－25 群馬大
成蹊大 49－13 工芸大
拓殖大 40－15 杏林大
明学大 46－21 工芸大
成蹊大 33－23 群馬大
拓殖大 35－15 外語大
外語大 41－16 大東大
外語大 34－17 杏林大
拓殖大 41－13 大東大
群馬大 37－22 工芸大
明学大 26－17 成蹊大
杏林大 26－16 日工大
杏林大 12－0 群馬大
工芸大 12－0 大東大
拓殖大 22－20 明学大
成蹊大 32－19 外語大

〔順位〕①拓殖大②明治学院大③成蹊大④東京外語大⑤杏林大⑥群馬大⑦東京工芸大⑧大東文化大⑨日本工業大⑩玉川大

▼女子2部

千明短大 22－13 都留文大
千明短大 36－7 文教大
茨城大 19－9 都留文大
都留文大 20－13 創価大
茨城大 21－7 文教大
千明短大 41－3 創価大
都留文大 17－10 文教大
茨城大 30－9 創価大
都留文大 27－8 横浜国大
文教大 11－7 創価大
千明短大 24－12 茨城大
創価大 22－11 横浜国大
千明短大 不明 横浜国大
茨城大 不明 横浜国大
文教大 不明 横浜国大

〔順位〕①千葉明徳短大②茨城大③都留文科大④文教大⑤創価大⑥横浜国立大

▼入替戦

〈男子〉

帝京大（6部2位） 27（12－8, 15－3）11 独協大（5部7位）
横浜商大（6部1位） 36（17－11, 19－12）23 埼玉大（5部8位）
都留文大（5部2位） 36（16－11, 20－17）28 東農工大（4部7位）
筑波大（1部7位） 26（13－5, 13－8）13 明大（2部2位）
慶大（1部8位） 22（9－12, 13－9）21 順天大（2部1位）
明学大（7部2位） 24（12－13, 12－6）19 武蔵大（6部7位）
拓殖大（7部1位） 32（17－12, 15－8）20 関学大（6部8位）
武工大（3部7位） 26（13－11, 13－7）18 千葉大（4部2位）
防衛大（3部8位） 24（14－15, 10－8）23 芝浦工大（4部1位）
駒沢大（2部7位） 28（11－11, 17－11）22 茨城大（3部2位）
上智大（2部8位） 24（11－15, 13－6）21 東理大（3部1位）

※以上の結果、帝京大、横浜商大、都留文科大、横浜国立大、明治学院大、拓殖大が昇格、筑波大、慶応大、武蔵工大、防衛大、駒沢大、上智大が残留しました。

▼〈女子〉

千明短大（2部1位） 22（12－11, 10－9）20 東学大（1部6位）

※この結果、千葉明徳短大が昇格。

東海学生

▼男子1部

中京大 22（8－12, 14－9）21 名城大
中部大 37（21－8, 16－9）17 愛教大
愛学大 25（10－10, 15－9）19 名学大
名城大 36（16－13, 20－10）23 名学大
中部大 34（19－9, 15－10）19 愛学大
中京大 34（18－9, 16－10）19 愛教大
愛教大 29（13－14, 16－11）25 名学大
中部大 38（19－13, 19－11）24 名城大
中部大 29（15－5, 14－8）13 愛学大
中京大 44（24－14, 20－13）27 名学大
愛学大 23（10－11, 13－12）23 愛教大
名城大 27（17－10, 10－11）21 愛教大
中部大 34（15－12, 19－14）26 名学大
名城大 19（7－7, 12－7）14 愛学大
中部大 29（17－13, 12－9）22 中京大

〔順位〕①中部大（5勝）②中京大（4勝1敗）③名城大（3勝2敗）④愛知学院大（1勝3敗1分）⑤愛知教育大（1勝3敗1分）⑥名古屋学院大（5敗）※4、5位は得失点差による。

▼男子2部

名古屋大 33－26 滋賀大
日福大 32－23 静岡大
愛知大 24－21 南山大
名古屋大 28－28 静岡大
滋賀大 24－21 日福大
名古屋大 25－25 愛知大
静岡大 36－27 南山大
滋賀大 25－23 愛知大
日福大 26－17 南山大
名古屋大 27－20 南山大
滋賀大 40－33 静岡大
愛知大 27－26 静岡大
滋賀大 25－23 愛知大
名古屋大 24－23 日福大
日福大 不明 南山大

〔順位〕①名古屋大②滋賀大③日本福祉大④愛知大⑤南山大

▼男子3部

三重大 28－25 岐阜大
岐阜大 29－28 常葉大
名工大 51－9 豊技大
三重大 29－24 常葉大
名工大 41－17 岐阜大
岐阜大 33－24 豊技大
名工大 44－24 常葉大
三重大 27－25 豊技大
三重大 20－16 名工大
常葉大 35－32 豊技大

〔順位〕①三重大②名古屋工大③岐阜大④常葉学園大⑤豊橋技術科学大

▼男子4部

名経大 34－15 愛医大
工専 12－0 愛工大
名経大 27－14 愛工大
工専 40－14 皇学館大
工専 44－25 愛医大
愛工大 28－14 皇学館大

愛医大	29	20	愛工大
名経大	49	23	皇学館大
愛医大	36	28	皇学館大
名経大	30	22	工専

〔順位〕①名古屋経済大②豊田工専③愛知医科大④愛知工大⑤皇学館大

▼女子1部

中京女大	55	28－4	27－4	8	静岡大
愛教大	21	10－10	11－9	19	中京大
愛教大	24	13－10	11－13	23	中京女大
中京大	41	19－2	22－1	3	静岡大
愛教大	40	20－3	20－4	7	静岡大
中京女大	27	12－3	15－7	10	中京大
中京大	42	25－1	17－1	2	静岡大
中京女大	20	8－11	12－6	17	愛教大
中京女大	46	22－7	24－4	11	静岡大
愛教大	23	8－10	15－6	16	中京大
愛教大	48	25－2	23－2	4	静岡大
中京女大	32	19－6	13－11	17	中京大

〔順位〕①中京女大（5勝1敗）②愛知教育大（5勝1敗）③中京大（2勝4敗）④静岡大（6敗）

※1、2位は得失点差による。

▼女子2部

日福大	31	7	皇学館大
南山大	17	12	愛学大
皇学館大	19	19	南山大
日福大	26	10	愛学大
三重大	18	7	愛学大
三重大	18	13	南山大
三重大	23	14	皇学館大
皇学館大	27	24	愛学大
三重大	12	10	日福大
日福大	不明		南山大

〔順位〕①三重大②日本福祉大③南山大④皇学館大⑤愛知学院大

▼入替戦

〈男子〉

名学大（1部6位）	30	16－16	14－12	28	名古屋大（2部1位）
愛教大（1部5位）	34	19－13	15－9	22	滋賀大（2部2位）
南山大（2部6位）	25	13－8	12－10	18	三重大（3部1位）
名経大（4部1位）	29	15－14	14－13	27	豊技大（3部5位）

〈女子〉

三重大（2部1位）	19	10－4	9－3	7	静岡大（1部4位）

※この結果、名古屋学院大、愛知教育大が1部残留、南山大が2部残留、名古屋経済大が3部昇格、女子の三重大が1部昇格を決めた。

関西学生

▼男子1部

大体大	31	14－11	17－8	19	近大
大体大	33	18－12	15－4	16	大経大
同大	24	9－13	15－8	21	大経大
京産大	22	11－13	11－7	20	近大
大経大	30	16－13	14－11	24	近大
大教大	30	17－13	13－16	29	天理大
大体大	34	19－7	15－3	10	京産大
大体大	27	14－13	13－11	24	大教大
同大	42	19－11	23－7	18	近大
大体大	27	14－7	13－11	18	天理大
大経大	31	17－12	14－12	24	大教大
大体大	20	9－10	11－10	20	同大
大教大	27	13－14	14－6	20	京産大
天理大	38	22－7	16－14	21	近大
同大	28	15－9	13－9	18	京産大
大経大	28	15－7	13－12	19	天理大
同大	19	9－10	10－8	18	大経大
京産大	32	17－12	15－14	26	天理大
大教大	28	14－10	14－10	20	近大
大経大	34	15－10	19－11	21	京産大
同大	36	21－10	15－11	21	天理大

〔順位〕①大阪体大（5勝1分）②同志社大（5勝1分）③大阪経済大（4勝2敗）④大阪教育大（3勝3敗）⑤京都産業大（2勝4敗）⑥天理大（1勝5敗）⑦近畿大（6敗）※1、2位は得失点差による。

▼男子2部

京教大	24	21	桃山大
京教大	38	15	大市大
京教大	28	16	関大
神戸大	25	21	京教大
京教大	24	22	阪大
京教大	30	12	大院大
桃山大	33	22	大市大
桃山大	20	17	関大
桃山大	27	18	神戸大
桃山大	25	21	阪大
桃山大	28	22	大院大
大市大	20	17	関大
大市大	24	18	神戸大
大市大	24	24	阪大
大市大	37	17	大院大

関大 22－17 神戸大
関大 16－15 阪大
関大 27－12 大院大
阪大 29－28 神戸大
神戸大 37－20 大院大
大院大 24－17 阪大

〔順位〕①京都教育大（5勝1敗）②桃山学院大（5勝1敗）③大阪市立大（3勝1分2敗）④関西大（3勝3敗）⑤神戸大（2勝4敗）⑥大阪大（1勝1分4敗）⑦大阪学院大（1勝5敗）※1・2位は対戦間成績による。

▼男子3部

大府大 18－17 京工大
大府大 30－17 甲南大
大府大 37－16 追手門大
大府大 33－19 関学大
大府大 32－16 京都大
大府大 38－21 和歌山大
京工大 31－31 甲南大
追手門大 21－20 京工大
京工大 32－22 関学大
京工大 28－21 京都大
京工大 37－24 和歌山大
甲南大 38－26 追手門大
関学大 26－25 甲南大
甲南大 29－17 京都大
甲南大 26－15 和歌山大
追手門大 24－17 関学大
京都大 19－17 追手門大
追手門大 27－14 和歌山大
関学大 22－20 京都大
関学大 35－19 和歌山大
京都大 23－13 和歌山大

〔順位〕①大阪府立大（6勝）②京都工芸繊維大（3勝1分2敗）③甲南大（3勝1分2敗）④追手門大（3勝3敗）⑤関西学院大（3勝3敗）⑥京都大（2勝4敗）⑦和歌山大（6敗）※2・3位は得点失点差、4・5位は対戦者間の成績による。

▼男子4部

関外大 12－0 立命大
関外大 38－18 竜谷大
関外大 30－28 仏教大
関外大 40－17 奈教大
関外大 41－25 大工大
関外大 49－24 八代大
立命大 32－26 竜谷大
立命大 42－32 仏教大
立命大 29－25 奈教大
立命大 38－11 大工大
立命大 36－22 八代大
仏教大 38－30 竜谷大
竜谷大 43－23 奈教大
竜谷大 33－20 大工大
竜谷大 44－29 八代大
仏教大 39－39 奈教大
大工大 32－31 仏教大
仏教大 48－33 八代大
奈教大 34－29 大工大
奈教大 42－36 八代大
大工大 30－30 八代大

〔順位〕①関西外国語大（6勝）②立命館大（5勝1敗）③竜谷大（3勝3敗）④仏教大（2勝1分3敗）⑤奈良教育大（2勝1分3敗）⑥大阪工業大（1勝1分4敗）⑦八代学院大（1分5敗）

▼男子5部

神院大 26－18 奈良大
神院大 22－18 滋賀大
神院大 24－14 京府大
神船大 28－19 神院大
神院大 24－13 姫工大
奈良大 32－22 滋賀大
奈良大 33－19 京府大
奈良大 37－32 神船大
奈良大 42－16 姫工大
滋賀大 31－13 京府大
滋賀大 25－19 神船大
滋賀大 33－8 姫工大
京府大 25－21 神船大
京府大 22－14 姫工大
神船大 36－15 姫工大

〔順位〕①神戸学院大（4勝1敗）②奈良大（4勝1敗）③滋賀大（3勝2敗）④京都府立大（2勝3敗）⑤神戸商船大（2勝3敗）⑥姫路工業大（5敗）※1・2位、4・5位は対戦者間の成績による。

▼男子6部

兵教大 27－17 大歯大
兵教大 29－15 大薬大
兵教大 19－11 大外大
兵教大 37－12 京外大
大歯大 25－15 大薬大
大歯大 31－24 大外大
大歯大 25－18 京外大
大薬大 21－19 大外大
大薬大 38－22 京外大
大外大 24－20 京外大

〔順位〕①兵庫教育大（4勝）②大阪歯科大（3勝1敗）③大阪薬科大（2勝2敗）④大阪外国語大（1勝3敗）⑤京都外国語大（4敗）

▼女子1部

大教大 42（20－4、22－3）7 関外大
武庫川大 43（18－0、25－2）2 関学大
大教大 53（23－3、30－4）7 関学大
大体大 40（17－6、23－5）11 京教大
天理大 39（21－6、18－6）12 関外大
大教大 28（12－9、16－7）16 京教大
大体大 31（15－7、16－14）21 天理大
武庫川大 38（23－3、15－1）4 京教大
大体大 36（19－5、17－6）11 関外大
天理大 51（24－5、27－10）15 関学大
関外大 13（7－4、6－6）10 京教大
大体大 45（30－1、15－1）2 関学大
天理大 32（13－11、19－8）19 京教大
武庫川大 35（18－6、17－6）12 大教大
関外大 31（14－9、17－5）14 関学大
大体大 25（11－13、14－7）20 大教大
武庫川大 32（17－8、15－6）14 天理大
京教大 28（11－8、17－4）12 関学大
天理大 25（17－12、8－8）20 大教大
武庫川大 15（6－7、9－8）15 大体大
武庫川大 32（20－7、12－2）9 関外大

〔順位〕①武庫川女大（5勝1分）②大阪体育大（5勝1分）③天理大（4勝2敗）④大阪教育大（2勝4敗）⑤関西外国語大（3勝3敗）⑥京都教育大（1勝5敗）⑦関西学院大（6敗）※1、2位は得失点差による。

▼女子2部

成蹊大 16－13 和歌山大
成蹊大 27－13 関大
成蹊大 22－10 仏教大
成蹊大 21－7 滋賀大
成蹊大 20－16 奈女大
成蹊大 29－8 京府大
和歌山大 15－8 関大
和歌山大 19－10 仏教大
和歌山大 23－6 滋賀大
和歌山大 15－7 奈女大
和歌山大 18－1 京府大
仏教大 15－13 関大
関大 20－11 滋賀大

関大 19－14 奈女大
関大 26－9 京府大
滋賀大 10－9 仏教大
仏教大 10－7 奈女大
仏教大 16－2 京府大
滋賀大 14－9 奈女大
滋賀大 12－4 京府大
奈女大 15－6 京府大

〔順位〕①大阪成蹊女短大（6勝）②和歌山大（5勝1敗）③関西大（3勝3敗）④仏教大（3勝3敗）⑤滋賀大（3勝3敗）⑥奈良女大（1勝5敗）⑦京都府立大（6敗）※3～5位は得失点差による。

▼女子3部

大薬大 16－12 京女大
大薬大 18－9 大外大
大薬大 17－14 奈教大
神戸大 16－15 大薬大
大薬大 12－0 園田大
大薬大 19－8 立命大
京女大 17－10 大外大
京女大 19－19 奈教大
京女大 13－8 神戸大
京女大 21－3 園田大
京女大 19－4 立命大
大外大 18－16 奈教大
大外大 14－12 神戸大
大外大 25－12 園田大
大外大 20－12 立命大
奈教大 15－11 神戸大
奈教大 12－0 園田大
奈教大 29－8 立命大
神戸大 23－7 園田大
神戸大 13－5 立命大
園田大 14－10 立命大

〔順位〕①大阪薬科大（5勝1敗）②京都女子大（4勝1分1敗）③大阪外国語大（4勝2敗）④奈良教育大（3勝1分2敗）⑤神戸大（3勝3敗）⑥園田学園女子大（1勝5敗）⑦立命館大（6敗）

▼入替戦

〈男子〉

天理大 29－25 桃山大
（1部残留）
京都教大 24－16 近畿大
（1部昇格）
大府大 27－20 大院大
（2部昇格）
阪大 26－23 京工大
（2部残留）
関外大 38－17 和歌山大
（3部昇格）
立命館大 31－12 京都大
（3部残留）
八代大 12－0 神院大
（4部残留）
奈良大 32－30 大工大
（4部昇格）
兵教大 27－13 姫工大
（5部昇格）
神船大 12－0 大歯大
（5部残留）

〈女子〉

成蹊大 26－19 関学大
（1部昇格）
京教大 32－8 和歌山大
（1部残留）
奈女大 11－8 京女大
（2部残留）
京府大 13－12 大薬大
（2部残留）

中四国学生

▼男子1部

松山商大 19（10 9／10 7）17 山口大
松山商大 20（11 9／10 9）19 高知大
松山商大 21（12 9／7 5）12 広島大
松山商大 28（13 15／12 7）19 岡山大
山口大 17（10 7／6 9）15 高知大
山口大 19（9 10／7 3）10 広島大
山口大 17（9 8／7 9）16 岡山大
高知大 19（13 6／4 9）13 広島大
高知大 24（15 9／10 11）21 岡山大
広島大 24（12 12／9 3）12 岡山大

〔順位〕①松山商大（4勝）②山口大（3勝1敗）③高知大（2勝2敗）④広島大（1勝3敗）⑤岡山大（4敗）

▼男子2部

愛媛大 30－15 島根大
愛媛大 17－16 徳山大
愛媛大 21－16 香川大
愛媛大 19－16 鳥取大
島根大 29－27 徳山大
島根大 28－24 鳥取大
徳山大 31－26 香川大
徳山大 25－20 鳥取大
香川大 35－17 鳥取大

〔順位〕①愛媛大②島根大③徳山大④香川大⑤鳥取大

▼男子3部

広島工大 18－18 近代呉工
広島工大 26－9 徳島大
広島工大 18－17 広島修道大
広島工大 32－10 岡山理大
近代呉工 20－18 徳島大
近代呉工 26－12 広島修道大
近代呉工 28－13 岡山理大
徳島大 22－17 広島修道大
徳島大 35－13 岡山理大
広島修道大 30－13 岡山理大

〔順位〕①広島工大②近代呉工学部③徳島大④広島修道大⑤岡山理科大

▼女子

岡山大 15（6 9／8 6）14 山口大
岡山大 16（8 8／8 6）14 高知大
岡山大 14（8 6／5 7）12 広島大
岡山大 27（11 16／11 9）20 愛媛大
岡山大 17（6 11／5 6）11 岡山県短
山口大 17（10 7／6 9）15 高知大
山口大 26（12 14／9 15）24 愛媛大
山口大 14（8 6／7 4）11 岡山県短
広島大 11（4 7／5 3）8 山口大
広島大 26（15 11／6 7）13 愛媛大
広島大 19（11 8／5 7）12 岡山県短
高知大 15（7 8／5 8）13 広島大
高知大 20（11 9／4 7）11 岡山県短
高知大 16（7 9／5 9）14 愛媛大
愛媛大 26（17 9／8 10）18 岡山県短

〔順位〕①岡山大（5勝）②山口大（3勝2敗）③広島大（3勝2敗）④高知大（3勝2敗）⑤愛媛大（1勝4敗）⑥岡山県短大（5敗）※2～4位は25％ルールを適用し得失点差による。

各地の記録から…

東北

第14回青森県春季社会人選手権

（4月18、19日／七戸町立体育館）

〈男子〉

▼1回戦

引前大 28－18 青南ク

海自第2航空群 29－27 七戸ユニオンB

青森ク キケン 尾の上ク

野辺地クB 41－26 海自大湊

▼2回戦

野辺地クA 46－15 引前大

青森教員 27－24 海自第2航空群

青商ク 36－29 青森ク

七戸ユニオンA 25－20 野辺地クB

▼準決勝

野辺地クA 39－30 青森教員

七戸ユニオン 35－32 青商ク

▼決勝

野辺地クA 42（21－14、21－18）32 七戸ユニオンA

〈女子〉

▼リーグ戦

あすなろク 31－15 七戸キャッツ

野辺地ク 25－10 七戸キャッツ

あすなろク 33－28 野辺地ク

〔順位〕①あすなろク②野辺地ク③七戸キャッツ

第37回青森県高校春季選手権

（5月9、10日／青森高）

〈男子〉

▼1回戦

三本木 23－7 青森山田

十和田工 21－13 五所川原

青森南 42－24 横浜分校

青森 34－21 柏木農

鯵ヶ沢 26－24 七戸

今別 41－11 引前南

野辺地 38－20 青森東

▼2回戦

青森商 24－16 三本木

青森南 30－23 十和田工

青森 49－29 鯵ヶ沢

野辺地 23－16 今別

▼準決勝

青森商 30－20 青森南

野辺地 27－24 青森

▼決勝

青森商 23（6－13、13－6、2－2、2－1）22 野辺地

※青森商は3年連続7回目の優勝

〈女子〉

▼1回戦

青森西 15－12 野辺地

青森中央 19－8 青森東

今別 21－15 三本木

青森商 30－4 七戸

▼準決勝

青森西 16－13 青森中央

青森商 39－5 三本木

▼決勝

青森西 24（14－6、10－9）15 青森商

※青森商は3年連続15回目の優勝

第36回宮城県高校総体

（6月6～8日／勤労者体育館、宮城二女高、宮城一女高）

〈男子〉

▼1回戦

大崎中央 29－4 上沼農

塩釜 15－12 宮城工

名取北 18－10 築館

古川 31－13 東北

仙台二 23－21 仙台

仙台商 22－15 宮城広瀬

仙台三 24－16 一迫商

榴ヶ岡 18－11 仙台東

仙台南 13－11 泉松陵

仙台西 21－19 佐沼

古川商 34－11 宮城水産

泉館山 22－13 東北電子工

▼2回戦

仙台育英 49－3 大崎中央

塩釜 12－8 名取北

古川 21－12 仙台二

仙台向山 35－13 仙台商

仙台三 13－11 仙台一

仙台南 31－8 榴ヶ岡

仙台西 19－16 古川商

古川工 33－16 泉館山

▼3回戦

仙台育英 20－8 名取北

仙台向山 20－13 古川

仙台南 14－8 仙台三

古川工 32－18 仙台西

▼準決勝

仙台育英 20－12 仙台向山

古川工 20－19 仙台南

▼決勝

仙台育英 20（12－7、8－7）14 古川工

〈女子〉

▼1回戦

聖和 33－7 泉館山

塩釜女 11－10 宮城三女

朴沢女 28－16 名取北

飯野川 22－5 仙台女商

宮城二女 42－5 築館女

古川女 21－7 泉松陵

古川商 30－9 仙台西

涌谷 15－1 宮城一女

▼2回戦

聖和 27－8 塩釜女

朴沢女 18－16 飯野川

宮城二女 11－4 古川女

涌谷 23－7 古川商

▼準決勝

聖和 15－8 朴沢女

涌谷 18－9 宮城二女

▼決勝

聖和 14（7－6、7－7）13 涌谷

第39回岩手県高校総体

（6月5～8日／花巻市民体育館、花巻北高体育館）

〈男子〉

▼1回戦

釜石南 28－4 久慈山形

盛岡三 23－11 福岡工

花巻農 38－17 盛岡商

岩手 31－21 福岡

西和賀 23－19 一戸

▼2回戦

盛岡四 19－16 釜石南

盛岡三 31－12 水沢

盛岡南 32－11 久慈

花巻農 27－19 宮古

花巻北 20－9 岩手

生活学園 20－19 一関工

大迫 26－16 一関一

盛岡一 61－6 西和賀

▼3回戦

盛岡四 33－12 盛岡三

花巻農 23－19 盛岡南

花巻北 33－16 生活学園

盛岡一 31－13 大迫

▼準決勝

盛岡四 24－16 花巻農

盛岡一 23－12 花巻北

▼決勝

盛岡一 24（13－9、11－7）16 盛岡四

※盛岡一は2年連続27回目の優勝

〈女子〉

▼1回戦

岩手女 12－10 水沢

盛岡白百合学園 13－12 花巻農

盛岡三 18－1 大原商

▼2回戦

盛岡二 23－0 岩手女

一戸 14－4 岩泉田野畑分校

黒沢尻南 13－11 盛岡四

釜石南 22－7 盛岡白百合学園
花巻南 15－6 平館
宮古 23－7 久慈山形分校
盛岡南 21－7 向中野学園
花巻北 29－2 盛岡三

▼3回戦
盛岡三 25－2 一戸
釜石南 17－8 黒沢尻南
花巻南 18－2 宮古
花巻北 23－6 盛岡南

▼準決勝
盛岡二 20－8 釜石南
花巻北 29－10 花巻南

▼決勝
盛岡二 11（4－5、7－4）9 花巻北

※盛岡二は3年連続11回目の優勝

関東

第40回千葉県高校総体

（5月9～11日／生浜高）

〈男子〉

▼1回戦
市川 25－8 柏
松戸六実 24－17 船橋東
柏陵 20－16 我孫子
千葉南 17－16 国府台
船橋旭 34－7 国分
土気 25－23 京葉
専大松戸 20－18 泉
二松沼南 28－14 木更津
八千代 28－6 東葛飾
拓大紅陵 29－12 船橋西
学館浦安 25－15 生浜
流山中央 26－11 房総学園
東京学館 29－7 鎌ヶ谷
佐原 20－8 若松
柏南 27－3 鶴舞商
東邦 42－5 市立松戸

▼2回戦
市川 42－11 松戸六実
千葉南 24－13 柏陵
船橋旭 28－14 土気
二松沼南 32－15 専大松戸
八千代 26－9 拓大紅陵
学館浦安 21－14 流山中央
佐原 16－13 東京学館
東邦 25－8 柏南

▼3回戦
市川 44－12 千葉南
二松沼南 19－12 船橋旭
八千代 23－11 学館浦安
東邦 38－10 佐原

▼準決勝
市川 27－13 二松沼南
東邦 21－13 八千代

▼3位決定戦
八千代 16－15 二松沼南

▼決勝
市川 16（6－8、10－4）12 東邦

〈女子〉

▼1回戦
市立松戸 15－14 松戸秋山
聖徳 8－7 土気
柏南 22－2 渋谷幕張
松戸六実 12－0 若葉看護
泉 14－7 東葛飾

▼2回戦
昭和学院 49－3 市立松戸
佐原女 22－1 明徳
幕張北 19－11 聖徳
柏南 11－4 東邦
流山中央 27－5 松戸六実
佐原 24－2 四街道
御宿家政 36－1 東金女
和洋女 20－5 泉

▼3回戦
昭和学院 32－4 佐原女
柏南 18－8 幕張北
流山中央 19－13 佐原
和洋女 31－7 御宿家政

▼準決勝
昭和学院 28－3 柏南
和洋女 20－15 流山中央

▼3位決定戦
柏南 19－12 流山中央

▼決勝
昭和学院 30（21－9、9－4）13 和洋女

群馬県高校総体

（5月16、17日／前橋商高）

〈男子〉

▼1回戦
下仁田 23－12 太田市商
富岡実 21－18 高崎工
前橋 14－10 玉村
前橋育英 24－9 藤岡
桐生 19－17 前橋商

▼2回戦
富岡 34－16 下仁田
前橋 23－9 富岡実
桐生工 31－9 前橋育英
吉井 45－9 桐生

▼準決勝
富岡 31－12 前橋
吉井 21－13 桐生工

▼3位決定戦
前橋 13－12 桐生工

▼決勝
富岡 28（12－7、16－11）18 吉井

※富岡は3年連続14度目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
桐生女 40－3 前橋市女
桐生西 28－6 桐生市商
高崎女 18－10 佐藤学園
前橋東高 11－9 前橋商

▼2回戦
群女短大附 49－9 桐生女
下仁田 17－7 桐生西
高崎市女 29－3 高崎女
吉井 44－4 前橋東高

▼準決勝
群女短大附 26－8 下仁田
吉井 13－6 高崎市女

▼3位決定戦
下仁田 15－13 高崎市女

▼決勝
群女短大附 31（17－6、14－3）9 吉井

※群女短大附は2年連続7回目の優勝。

第40回東京都民体育大会

（5月24～31日／代々木第1体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
港区 33－9 多摩市

〈男子〉

▼1回戦

墨田区 27－15 台東区
文京区 25－9 立川市
千代田区 26－8 大田区
新宿区 29－9 府中市
中央区 26－13 渋谷区
調布市 36－19 杉並区

▼2回戦

港区 28－17 江東区
文京区 23－2 墨田区
新宿区 24－15 千代田区
中央区 31－21 調布市

▼準決勝

港区 21－11 文京区
中央区 24－19 新宿区

▼決勝

中央区 25（14－11、13－10）23 港区

〈女子〉

▼1回戦

府中市 10－7 多摩市
台東区 24－8 渋谷区
調布市 37－13 江東区

▼準決勝

府中市 19－12 大田区
調布市 48－12 台東区

▼決勝

調布市 42（19－7、23－7）14 府中市

水海道市長杯争奪 茨城県中学生大会

（5月31日、6月7日／水海道市民体育館）

〈男子〉

▼準々決勝

鬼怒 19－18 利根
水海道 17－16 土浦三
高崎 15－14 出島北
新館 28－13 石岡

▼準決勝

水海道 20－12 鬼怒
新館 17－12 高崎

▼決勝

水海道 31－23 新館

〈女子〉

▼準々決勝

伊奈東 28－3 水海道
守谷 17－5 鬼怒
土浦六 9－6 新館
岩井南 22－13 水海道西

▼準決勝

伊奈東 21－8 守谷
岩井南 13－11 土浦六

▼決勝

伊奈東 19－7 岩井南

三重県高校総体

（5月30、31日、6月1日／津東高校）

〈男子〉

▼1回戦

○Aブロック

亀山 12－11 津東
海星 42－6 名張西
桑名北 21－13 津

▼2回戦

四日市工 35－8 亀山
桑名北 22－14 海星

▼3回戦

四日市工 29－9 桑名北

○Bブロック

▼1回戦

高田 27－12 川越
桑名西 22－8 桑名工
日生第一 30－7 上野工

▼2回戦

桑名 32－11 高田
桑名西 34－12 日生第一

▼3回戦

桑名 22－16 桑名西

○Cブロック

▼1回戦

津西 16－9 四日市中央工
四日市 17－9 尾鷲
四日市西 22－17 津工

▼2回戦

四日市南 22－12 津西
四日市 18－13 四日市西

▼3回戦

四日市南 15－13 四日市

▼7～9位決定戦

亀山 25－16 海星
高田 キケン 日生第一
津西 13－8 四日市西

▼4～6位決定戦

四日市 12－9 桑名北
桑名西 19－16 四日市
桑名西 19－18 桑名北

▼1～3位決定戦

四日市工 33（19－1、14－1）2 四日市南
桑名 15（8－4、7－8）12 四日市南
四日市工 25（10－8、15－4）12 桑名

〔順位〕①四日市工②桑名③四日市南

〈女子〉

○Aブロック

▼1回戦

松阪女 21－13 名張西

▼2回戦

暁 49－4 松阪女
尾鷲 16－14 四日市四郷

▼3回戦

暁 36－11 尾鷲

○Bブロック

▼1回戦

津西 19－7 桑名北
亀山 14－9 四日市

▼2回戦

四日市商 44－1 津西
亀山 25－5 上野

▼3回戦

四日市商 29－6 亀山

○Cブロック

▼1回戦

四日市南 14－9 四日市西
川越 21－3 津

▼2回戦

津東 18－16 四日市南
川越 19－15 桑名

▼3回戦

津東 16－7 川越

▼7～9位決定戦

四日市四郷 19－5 松阪女
上野 20－6 津西
四日市南 16－8 桑名

▼4～6位決定戦

尾鷲 14－5 川越
亀山 10－4 川越
亀山 22－17 尾鷲

▼1～3位決定戦

暁 22（8-4、14-4）8 津東
四日市商 28（12-6、16-3）9 津東
暁 18（14-0、4-6）6 四日市商
〔順位〕①暁②四日市商③津東

東海

静岡県高校総体
〈日程、場所不明〉

〈男子〉
▼1回戦
小山 12-10 オイスカ
静岡西 27-12 沼津工
清水東 17-10 土肥
静岡南 23-11 浜松城北工
▼2回戦
清水商 32-7 小山
伊豆中央 22-18 気賀
沼津東 23-17 静岡東
浜松南 23-16 静岡西
静岡農 16-9 清水東
富士 14-11 浜松湖東
二俣 19-17 御殿場南
星陵 20-16 静岡南
▼3回戦
清水商 24-15 伊豆中央
浜松南 21-19 沼津東
静岡農 16-7 富士
星陵 31-13 二俣
▼準決勝
清水商 17-11 浜松商
星陵 21-14 静岡農
▼決勝
清水商 18（9-5、9-7）12 星陵

〈女子〉
▼1回戦
富士見 9-6 清水東
静岡城北 32-1 富士東
浜松南 19-6 吉原
清水西 23-5 御殿場
清水商 28-3 土肥
静岡農 16-8 小山
藤枝西 13-8 富士宮東
気賀 20-12 加藤学園
▼2回戦
静岡城北 29-4 富士見
清水西 29-4 浜松南
清水商 14-11 静岡農
気賀 24-12 藤枝西
▼準決勝
静岡城北 18-8 清水西
清水商 26-14 気賀
▼決勝
静岡城北 17（8-6、9-6）12 清水商

北信越

富山県高校総体
（5月30日〜6月1日／小杉高校）

〈男子〉
▼1回戦
小杉 30-16 水橋
富山中部 16-14 三上工
大沢野工 21-20 富山東
富山工 23-10 高朋
富山南 31-15 富山商
高岡 42-11 新湊
▼2回戦
氷見 34-15 小杉
富山 27-18 大門
伏木 20-18 富山中部
高岡商 31-6 大沢野工
呉羽 26-8 富山工
高岡商 29-11 雄山
富山南 25-24 八尾
高岡向陵 21-13 高岡
▼3回戦
氷見 36-25 富山
高岡商 28-8 伏木
呉羽 18-10 高岡南
高岡向陵 30-9 富山南
▼準決勝
氷見 30-10 高岡商
高岡向陵 25-19 呉羽
▼決勝
高岡向陵 15（8-8、7-6）14 氷見
※高岡向陵は3年連続5回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
高岡女 27-7 高岡第一
高岡 7-4 新湊
富山女 29-6 富山北部
呉羽 11-1 雄山
高岡向陵 16-12 小杉
▼2回戦
有磯 21-9 高岡女
富山女 18-5 高岡
呉羽 17-11 富山女短付
高岡商 17-3 高岡向陵
▼準決勝
有磯 21-13 富山女
高岡商 18-8 呉羽
▼決勝
有磯 18（7-5、11-6）11 高岡商
※有磯は2年ぶり18回目の優勝。

石川県高校総体
（6月4〜7日／場所不明）

〈男子〉
▼1回戦
金沢 16-15 大聖寺
泉丘 21-17 羽咋
▼2回戦
県立工 37-11 二水
錦丘 46-29 松陵
小松 35-20 星稜
小松明峰 32-15 小松商
向陽 45-12 金沢商
寺井 31-22 松任
小松工 51-6 金沢
市立工 19-13 泉丘
▼3回戦
小松工 23-16 県立工
小松 43-12 錦丘
小松明峰 30-15 向陽
市立工 34-18 寺井
▼準決勝
小松工 26-10 小松
小松明峰 25-11 市立工
▼決勝
小松工 19（12-7、7-9）16 小松明峰
※小松工は2年ぶり16回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
小松商 27－4 金沢商
星稜 10－6 女子大附
松任 12－6 寺井
小松市女 28－4 小松明峰
▼準決勝
小松商 45－1 星稜
小松市女 42－3 松任
▼決勝
小松商10（4－7、6－2）9小松市女
※小松商は2年ぶり3回目の優勝。

長野県高校総体

（6月6、7日／更埴市民体育館、戸倉町総合体育館）
〈男子〉
▼1回戦
臼田 19－15 長野東
野沢北 29－13 松本美須々ヶ丘
野沢南 24－14 坂城
小諸 棄権 上田千曲
▼2回戦
上田 26－16 臼田
屋代 18－16 野沢北
野沢南 24－22 北佐久農
小諸 23－19 田川
▼準決勝
屋代 17－14 上田
小諸 24－15 野沢南
▼決勝
屋代17（7－9、10－3）12小諸
〈女子〉
▼1回戦
田川 20－11 小諸商
松本美須々ヶ丘 27－6 小海
▼2回戦
屋代 21－11 田川
臼田 23－21 松本蟻ヶ崎
塩尻 45－4 北佐久農
佐久 55－9 松本美須々ヶ丘
▼準決勝
屋代 41－10 臼田
佐久 26－19 塩尻
▼決勝
佐久19（9－8、10－8）16屋代

中国

山口県学生春季リーグ戦

（5月3、4日／山口大学）
▼リーグ戦
山口大本部 29－29 徳山大
山口大本部 48－12 宇部高専
山口大本部 41－23 山口大医学部
山口大本部 49－13 徳山高専
徳山大 35－18 宇部高専
徳山大 45－26 山口大医学部
徳山大 34－18 徳山高専
宇部高専 37－25 山口大医学部
宇部高専 32－16 徳山高専
山口大医学部 29－22 徳山高専
〔順位〕①山口大本部（3勝1分）②徳山大（3勝1分）③宇部高専（2勝2敗）④山口大医学部（1勝3敗）⑤徳山高専（4敗）
※1・2位は得失点差による。

第32回（女子15回）中国一般選手権

（5月22日～24日／山口県・岩国商高ほか）
〈男子〉
▼1回戦
湧永製薬（広島）33－13 山口県教員団（山口）
桃太郎ク（岡山）28－21 鳥取大（鳥取）
下関ク（山口）36－20 倉吉ク（鳥取）
江津ク（島根）32－31 岡山教員（岡山）
白桃ク（岡山）23－20 朝酌ク（島根）
自衛隊呉（広島）30－19 山口大（山口）
日新製鋼呉（広島）39－10 松江ク（島根）
境港ク（鳥取）27－19 岩国ク（山口）
▼2回戦
湧永製薬 48－20 桃太郎ク
下関ク 36－28 江津ク
自衛隊呉 30－28 白桃ク
日新製鋼呉 30－24 境港ク
▼準決勝
湧永製薬43（21－10、22－13）23下関ク
日新製鋼呉42（21－6、21－7）13自衛隊呉
▼決勝
湧永製薬38（19－14、19－5）19日新製鋼呉
〈女子〉
▼1回戦
徳山ク（山口）キケン 広島大（広島）
山口教員（山口）20－8 松江ク（島根）
広島ク（広島）26－5 境港ク（鳥取）
▼準決勝
天城ク（岡山）30（12－3、18－9）12徳山ク
広島ク30（14－7、16－5）12山口教員
▼決勝
天城ク18（10－7、8－9）16広島ク

第38回中国高校選手権

（5月10、11日／広島県立体育館ほか）
〈男子〉
▼1回戦
岩国工（山口）20－16 倉敷工（岡山）
尾道（広島）11－9 江津（島根）
総社（岡山）22－12 呉昭和（広島）
松江工（島根）15－13 米子東（鳥取）
下松（山口）24－7 修道（広島）
玉野光南（岡山）29－15 米子西（鳥取）
境（鳥取）17－16 呉工（広島）

岩国（山口）24－14 飯南（島根）
▼2回戦
岩国工 18－12 尾道
総社 27－12 松江工
下松工 26－16 玉野光南
岩国 24－11 境
▼準決勝
岩国工 23（13－6、10－9）15 総社
下松工 22（14－7、8－7）14 岩国
▼決勝
下松工 28（14－9、14－11）20 岩国工

〈女子〉
▼1回戦
山陽女（広島）19－12 西大寺（岡山）
境（鳥取）21－7 浜田商（島根）
江津（島根）18－12 比治山（広島）
徳山商（山口）33－8 総社（岡山）
児島（岡山）18－8 米子北（鳥取）
第一女子（広島）15－8 米子西（鳥取）
岩国商（山口）31－9 松江市女（島根）
▼2回戦
山陽女 30－7 境
徳山商 44－7 江津
徳山 20－12 児島
岩国商 42－4 第一女子
▼準決勝
徳山商 20（13－6、7－7）13 山陽女
岩国商 18（9－7、9－6）13 徳山
▼決勝
岩国商 21（7－11、10－6、2－1、2－2）20 徳山商

第26回岡山県高校総体

（6月6、7日／西大寺高校）

〈男子〉
▼1回戦
倉敷工 21－8 大安寺
古城池 16－12 岡山工
吉備 14－12 操山
東岡工 27－15 水島工
玉野父南 35－9 玉野
倉敷南 15－15 児島（4PTC3）
備前東 12－12 津山（2PTC1）
総社 19－18 天城
▼2回戦
倉敷工 19－10 古城池
東岡工 30－12 吉備
玉野光南 42－9 倉敷南
総社 24－14 備前東
▼準決勝
倉敷工 16－10 東岡工
玉野光南 23－17 総社
▼決勝
倉敷工 15（9－5、6－6）11 玉野光南
※倉敷工は10年ぶり5回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
総社 14－4 操山
倉敷商 15－10 古城池
玉野 17－16 倉敷中央
玉野光南 24－6 芳泉
西大寺 20－8 天城
備前東 15－14 倉敷南
真備 18－8 大安寺
児島 22－8 落合
▼2回戦
総社 19－5 倉敷商
玉野光南 27－8 玉野
西大寺 18－4 備前東
児島 14－12 真備
▼準決勝
玉野光南 13－12 総社
西大寺 24－15 児島
▼決勝
西大寺 18（9－7、9－6）13 玉野光南
※西大寺は2年連続3回目の優勝。

四国

第16回香川県中学生大会

（5月4、5日／香川一中）

〈男子1部〉
古高松 24－9 桜町
光洋 26－9 玉藻
紫雲 18－13 勝賀
▼2回戦
香川一 29－10 古高松
光洋 16－8 綾南
山田 21－16 香東
木太 29－11 紫雲
▼準決勝
香川一 24－14 光洋
木太 27－11 山田
▼決勝
香川一 18（10－9、8－7）16 木太
※香川一は3年連続3回目の優勝。

〈女子1部〉
▼1回戦
山田 16－7 木太
▼2回戦
山田 12－7 香川一
香東 19－9 光洋
古高松 8－8 紫雲（1PTC0）
塩江 16－2 桜町
▼準決勝
山田 22－5 香東
塩江 12－3 古高松
▼決勝
山田 17（10－4、7－4）8 塩江
※山田は10年ぶり2回目の優勝。

〈男子2部〉
▼1回戦
光洋B 8－6 勝賀
木太A 12－6 木太B
香川一A 29－2 古高松A
香川一B 28－8 紫雲
▼2回戦
光洋B 14－9 香東
古高松B 13－8 木太A
香川一A 30－6 綾南
香川一B 19－9 香川一B
▼準決勝
古高松B 19－2 光洋B
香川一A 19－9 香川一B
▼決勝
香川一A 17（9－2、8－5）7 古高松B
※香川一は初優勝。

〈女子2部〉
▼1回戦
香川一A 8－7 山田
▼準決勝
香川一A 20－3 綾南
香川一B 20－3 香東
▼決勝
香川一A 25（16－6、9－5）11 香川一B
※香川一は初優勝。



(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』

第二六四号

昭和四十年六月
第三種郵便物認可

昭和六十二年六月二十五日 印刷
昭和六十二年七月一日 発行

東京都渋[illegible]南一ー一ー一
電話 代表（[illegible]）二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼
発行人 大野金一

定価三百五拾円
（年間購読料 三千三百円）